

校名（案）についての概要

1 校名候補決定までの経過について

(1) 校名の募集

募集期間 令和2年1月15日～2月28日

応募結果 158名から応募がある。候補数は88案となる。

(2) 学校運営部会で審議（令和2年6月10日）

決定方法 ふさわしいと思う校名を委員が選択し、選択のない候補を除いていく。

88案→27案→23案→16案→9案

9案になったところで、委員の意見により選択の少なかった5案を除き、委員の意見によりさらに候補を絞っていく。4案→2案に絞りその後に順位をつけた。

また、校名の後続く言葉（小中学校、義務教育学校、学園など）は、委員からの意見により1つに絞った。

・〇〇小中学校

名は体を表す。

小学生が通う＝小学校、中学生が通う＝中学校なのだから、小学生と中学生が通うのは小中学校で良いと思う。

・〇〇義務教育学校

堅苦しさを感ずる。

義務は保護者にとってなので、違和感がある。

・〇〇学園

私立のイメージがある。

2 学校運営部会の審議結果

第1候補 見沼さくら小中学校

第2候補 見沼小中学校

<委員からの意見>

見沼さくら小中学校

・新しい学校としてスタートする感じになる。

・これからの子どもたちにふさわしい。

・3つの小学校と見沼中学校が新しい学校を作るというコンセプトから見沼に言葉を追加したものが良い。

資料 2

- ・見沼中の校歌に「見沼桜」という言葉が出てくる。
- ・言葉がきれいな所が良い。
- ・小さい子どもでも親しみやすい。
- ・新しい門出を迎えることと、小学生らしさも出せる。
- ・歴史や伝統が感じられ、変化も感じられる。
- ・きれいな花、地域や学校のシンボルであるため。
- ・「桜」はひらがなの方が柔らかい、優しい感じがする。

見沼小中学校

- ・卒業前に校名が変わってしまう子供たちの気持ちもある。
- ・親しみがある。
- ・見沼中学校区の義務教育学校なので、わかりやすい。
- ・長年積み重ねてきた校名が続くのが良い。
- ・見沼を残してほしいという卒業生の声がある。
- ・校歌を作るときに、他の名前では長い気がする。
- ・新しさが無い。